

令和4年度 「集落自主活動に係る伴走支援事業」

業務実施報告書

公立大学法人 会津大学短期大学部

会津短大大戸町盛り上げ隊

2023年（令和5年）2月

目次

1. はじめに
2. 大戸地区の概要
3. 会津短大大戸町盛り上げ隊の活動シナリオ
4. 実施体制
5. 事業の概要（活動スケジュール）
6. 活動
 - ①竹伐採活動
 - ②芦ノ牧温泉駅夏祭りで竹ランタンのイルミネーションの実施
 - ③竹を使った生活雑貨デザイン及び制作
 - ④なぞなぞクイズ大会と竹を使った小物制作の体験ワークショップ
 - ⑤竹林風景と竹伐採作業の撮影
7. 得られた知見
8. 今後の事業提案
9. おわりに

1. はじめに

会津大学短期大学部 00T0 プロジェクトは、会津若松市大戸地区の活性化を目的としている。2019 年 6 月に経営情報コースに所属する学生を中心に立ち上がり、3 年目になる 2021 年度はデザイン情報コースプロダクトデザインを専攻する学生や、幼児教育学科造形教育を専攻する学生、さらには福島県立葵高等学校の生徒の幅広い参加も得て、伴走支援事業を実施した。また伴走支援事業を行うにあたっては、地域パートナーである大戸まちづくり協議会や大戸公民館を始め、会津若松市地域づくり課、会津若松第 3 地域包括支援センター、福島県自然保護課の方々に多くのご協力を頂いた。

2019 年度から 2021 年度までは、住民アンケートとフィールドワーク調査を通じて、高齢化に伴う里山保全活動の低下や竹林の荒廃、鳥獣被害の増加といった課題が挙げられ、それに伴い住民の不安も増大していることがわかった。鳥獣被害といった課題を解決するために、若い方に狩猟に関心を持たせるため狩猟セミナーの開催を実施した。里山保全活動の低下や竹林の荒廃において、竹の使い道がないために荒廃となり、イノシシの餌となってしまいうたけのこの増殖に伴い、鳥獣害被害誘発の一因と考えた。そのため竹林を保全する方法を模索し、竹の伐採を行い、その竹から作成した竹炭を使用した花苗づくりや竹ランタンイルミネーションによる芦ノ牧温泉駅の装飾などの活動を行った。

今年 2023 年度は、竹林や里山の保全活動及び持続可能な地域の普及啓発を目的とし、大戸地域の竹を使用した製品の開発・販売をはじめ、竹を用いたイベント等を通じて、大戸地域の活性化に貢献していきたいという考えから、デザイン情報コースプロダクトデザインを専攻する学生を中心に竹林保全活動の継続・継承をテーマに活動を行った。

2. 大戸地区の概要

大戸地区は、会津若松市の南部、下郷町との境に位置しており（下図の赤い点で示す）、中心市街地まで車で約30分かかる。芦ノ牧温泉や大川ダムが立地しているものの、近年、高齢化と人口減少が加速している。土地面積、人口、世帯数、高齢化率は以下の通りである。

- 土地面積 : 59,644 km²
- 人口 (H31/4) : 1,480 人 (うち20歳未満 : 130 人)
- 世帯数 (R2/1) : 681 世帯
- 高齢化率 (H31/4) : 大戸地区 : 47.8% (会津若松市全体 : 30.2%)



大戸地区には、天然温泉を自慢とした温泉街があり、稲作や果樹栽培が盛んに行われるなど、豊かな自然資源に恵まれている。一方、地域人口は10年で404人(16.4%)減少するなど少子高齢化が進んでおり、農業後継者の不足や森林の荒廃、コミュニティ機能の低下が深刻な課題となっている。そこで、まずは大戸地区に多く植生し、放置され荒廃の傾向にある竹林に着目し、竹を使用した取り組みを大戸まちづくり協議会の方々を始め、地域住民の方々と連携し、地域の活性化について考えていくこととした。

3. 会津短大大戸町盛り上げ隊の活動シナリオ

そこで私たち会津短大大戸町盛り上げ隊は、竹林保全活動の継続・継承のテーマのもと、以下のようなシナリオを提案した。

一つ目は、竹林風景と竹伐採作業の撮影である。竹伐採ができる人の増加、竹林問題に対する興味関心を持たせることを目的に、竹林で360度カメラを用いて動画を撮影する。一般の方々が竹伐採に必要な技術をVR動画で学び、竹伐採のハードルを下げることが可能かを検証する。

二つ目は、伐採竹を活用したイベント、商品の開発である。現在は町内で負の財産と考えられている「竹」を地域資源として活用し、竹製品を販売するワークショップや体験型のイベントを通じて、地域内外問わず竹と触れ合う機会向上と地域力向上をはかる。

これら2つを大きな枠組みとし、地域の環境改善推進、更なる魅力的な地域作りを目指すことを目的としている。

4. 実施体制

実施体制において、今年度は、デザイン情報コースプロダクトデザインを専攻する学生を中心に、昨年の大学生事業参加経験のある経営情報コースの学生に加え、幼児教育学科造形教育を専攻する学生で活動を実施してきた。

活動するにあたって、地域パートナーである大戸まちづくり協議会や大戸公民館を始め、会津若松市地域づくり課、社会システム株式会社の方々に多くのご協力を頂きながら活動に従事した。

5. 事業概要（活動スケジュール）

2023年度に行った活動は以下のとおりである。

- 7月
 - ・市／地域包括支援センター打合せ
 - ・短大の施設で竹雑貨のデザイン及び制作
 - ・芦ノ牧温泉駅で夏の大戸マルシェへ出店、竹雑貨の販売

- 8月
 - ・市／地域包括支援センター打合せ
 - ・芦ノ牧温泉駅夏祭りで竹ランタンのイルミネーションの実施

- 9月
 - ・竹の伐採活動
 - ・竹を用いたイベントの発案
 - ・市／地域包括支援センター/まちづくり協議会打合せ
 - ・大戸町の竹林で360度カメラ写真による竹林風景及び竹伐採作業の撮影

- 10月
 - ・竹の伐採活動
 - ・竹を用いたイベント景品のデザイン及び制作
 - ・竹を用いたモノづくりワークショップのためのキットデザイン及び制作

- 11月
 - 芦ノ牧温泉駅で秋の大戸マルシェにて、以下の活動の実施。
 - ・竹雑貨の販売
 - ・竹を用いたモノづくりワークショップの開催
 - ・なぞなぞクイズ大会の開催

6. 活動

①竹伐採活動

2022年9月と10月、大戸地区の裏山で大戸まちづくり協議会のメンバー、会津短大の教員と学生、会津若松市地域づくり課の方、若松第3地域包括支援センターの方が竹の伐採を行った。



②芦ノ牧温泉駅夏祭りで竹ランタンのイルミネーションの実施

伐採した竹を使って、大戸地区と OOTO プロジェクトの PR をするために、2021 年から制作した竹ランタンを用いて、8月14日に開催された大戸町夏まつりへ参加し、芦ノ牧温泉駅前で竹ランタンを設置してイルミネーションを実施した。



③竹を使った生活雑貨デザイン及び制作

竹の活用法の一つとして、地域の方々にも簡単に作れるような竹雑貨づくりを前提にし、デザインの力で洗練された商品の開発により、竹の使用価値を高めることと考えた。そのために、2022年度から、会津大学短期大学部のデザイン実習という授業の一環として竹を使った生活雑貨のデザインを試みた。竹という特殊な形状の材料を用い、教員と学生と一緒にデザインを考え、5点の作品を制作した。今年度は大戸マルシェに向けて、2022年度にデザインした5点の竹雑貨を量産するために、作り方を改良し、デザインを再考した。



そして、2022年7月16日及び同年11月3日に開催された大戸マルシェに出店。竹製品の販売を行った。作品を手に取り関心を向けてくださる方、実際に購入してくださる方もおり、一部の製品が完売するなど大変好評であった。



④なぞなぞクイズ大会と竹を使った小物制作の体験ワークショップ

2022年11月3日に開催された大戸マルシェにて、秋の大戸マルシェを更に盛り上げるため、なぞなぞクイズ大会と竹を使った小物制作の体験ワークショップを実施した。

なぞなぞクイズ大会では、会津短大大戸町盛り上げ隊のメンバーが数十問のなぞなぞを出題し、いらっしゃった方々に答えていただくというものである。なぞなぞに正解した方には景品として、会津短大大戸町盛り上げ隊がデザインした芦ノ牧温泉駅の焼印入り竹ストラップを贈呈した。クイズ大会には老若男女の幅広い年代の方にご参加いただき、小さな子どもを中心に想像以上の盛り上がりを見せていた。



竹を使った小物制作の体験ワークショップでは、プロダクトデザインを学ぶ学生がデザインした竹で制作したマグネット、ヘアクリップやストラップなど5種類のキットの販売を行った。購入後はデザインを担当した学生が指導し、ストラップの色や文字など自分だけのオリジナル小物を制作することができる。訪れた人は皆楽しそうにオリジナル小物の制作に勤しんでいた。



⑤竹林風景と竹伐採作業の撮影

2022年10月、大戸地域にある竹林で竹林風景と竹伐採作業の撮影を行った。竹伐採ができる人の増加、竹林問題に対する興味関心を持たせることを目的に、竹林で360度カメラ（リコー社製 THEHA SC2）を用いて動画の撮影を行った。一般の方々が竹伐採に必要な技術をVR動画で学び、竹伐採のハードルを下げることが可能であるかの検証を行った。



撮影した動画をYouTubeに投稿し、被験者はプロジェクターによる映像鑑賞と、VRヘッドセット（META社製メタークエスト2）による映像鑑賞の2種類を設定した。検証実験の参加者数は25名であった。



検証実験の結果、「現場の雰囲気がより身近に感じることができた」との回答が多く、VRによる体験の効果が裏付けられた。その他には、「やり方の流れがわかりやすかった」「お知り合いの先生が動画内にいらしゃったので安心感があつた」という回答も複数見られた。竹伐採する際に、事前にやり方を知った上で、知り合いが関与していることでより抵抗感やハードルを下げる効果が期待できる。

7. 得られた知見

本活動から得られた知見として以下を挙げる。

- どの活動においても、関心を高めることで参加を促すことが重要である。参加して欲しいターゲット層を明確にし、実際に参加してもらうことでより魅力を感じられ、継続的に活動を参加していただけたと感じた。
- 短大生も活動を通して、地域の課題や魅力を知ることができた。継続的に地域に係ることで、地域の課題をいち早く認識でき、地域をより良く魅せる策が生まれると考える。
- 「体験する」「作る」という要素を追加した取り組みになったことで、昨年と比べて子どもが興味関心を持ち、楽しんでいる様子が多く見られたと感じる。
- 竹製品を販売するとき、大戸マルシェに訪れた方に説明をするとき等、会話や関わりを通じて、放置竹林や人口の減少を周知してもらうきっかけづくりとなったのではないかと考える。
- 我々が制作する竹製品は、地域の方が制作する竹製品とは系統の異なるデザインが多いため、大戸マルシェに出品している方からも評価されていたように感じる。

8. 今後の事業提案

昨年に引き続きイベントで商品を購入・ワークショップで制作体験をしてもらう活動が主体であった。

次年度は、体験教室のような地域住民をはじめ、観光客などがいつでも作ることができるような施設を設置し、放置竹林の解消を促進できるような提案を考える。

また、第一回の生活雑貨をデザインした学生は今年度の活動をもって卒業してしまうため、デザインの継承を目的として、住民たちでも制作できる竹製品のデザインを次年度は検討していく。

9. おわりに

我々は今回、竹林や里山の保全活動及び持続可能な地域の普及啓発に視点を置き、事業を行った。大戸マルシェではコロナ禍にも関わらず、子どもから高齢の方、地域外からも多くの方々に参加して頂き、その方々が笑顔で元気に楽しんでいる光景がとても印象的であった。この笑顔を守り抜くことが何よりも優先すべき目標である。大戸地区がますますの発展し、今後も笑顔の絶えない地域となるよう、次年度以降も貢献できるよう尽力していく。

最後に本活動をするにあたり、惜しみない協力をして頂きました大戸まちづくり協議会、会津若松市地域づくり課、その他多くの支援者の皆様に深く感謝申し上げます。

会津短大大戸町盛り上げ隊 代表 石田

会津大学短期大学部 会津短大大戸町盛り上げ隊 計 14 名

石田、吉田、根本、半杭、金子、國分、矢野
佐藤、石川、近藤、齋藤、豊島、吉田、蓮沼

編集 石田、根本

(会津大学短期大学部 2 年)

監修 沈 (同大学講師)